

令和4年度 第1回 津山市総合教育会議 議事録（要旨）

- 1 日 時 令和4年7月12日（火）午後13時30分～15時00分
- 2 場 所 市役所2階 第1委員会室
- 3 出席者 谷口市長、有本教育長、薬師寺委員、光岡委員、福見委員、土居委員
- 4 同席者 企画財政部 左居部長
みらいビジョン戦略室 笠尾室長、岡主幹
教育委員会 栗野教育次長
教育総務課 梅原課長
学校教育課 高岡課長、森参事
- 5 会議日程 1. 開 会
2. 市長挨拶
3. 議 題
（1）社会や地域とつながる今後の学校教育について
4. その他
5. 閉 会

議事要旨

◆事務局

定刻となりましたので、ただいまから令和4年度第1回津山市総合教育会議を開催させていただきます。

私は本日の進行を務めます、津山市企画財政部長の左居でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

会議の開会にあたりまして、谷口市長からご挨拶を申し上げます。

◆市長

平素より皆様方には、次世代を担う子どもたちの健やかな成長のため、ご理解とご協力をいただいております。厚く御礼を申し上げます。

本市におきましては第5次総合計画の後期実施計画アクションプランを発表させていただいたところでございます。その中におきましては、人材は地域の将来を支える大切な財産であるという考え方をもち、持続可能な社会を構築をしていくためには、地域で活躍する人材の育成が不可欠であると考えているところでございます。

こうした考え方をもとに、取り組むべき四つの重点目標を持っておりませんが、その一つに「教育の充実で未来を切り開く人材を築く」を掲げ取組を進めているところです。

本日の会議では、「社会や地域とつながる今後の学校教育について」というテーマで、社会や地域が学校に対して何ができるのか、逆に、学校は、地域や社会に対して何を求めているのか。こうした部分について、ご意見を賜りたいと思っております。皆様方には広い視野から忌憚のないご意見をいただき、進めて参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

◆事務局

それでは議題へと移ります。

津山市総合教育会議運営要綱第3条に基づき会議の進行を市長にお願いしたいと思っております。

◆市長

先ほど挨拶でも申し上げましたけれども、今年度は、テーマを「社会や地域とつながる今後の学校教育について」ということで、協議をして参りたいと思っております。

また、次回の協議の進め方につきましても、本日の協議を踏まえまして、テーマに沿った関係者や有識者の方をお呼びして一緒に協議をするなども考えて参りたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、まず本市の取組の現状を事務局より説明します。

◆事務局

コミュニティ・スクールの現状についてご説明いたします。

コミュニティ・スクールとは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第47条に示されている学校運営協議会が設置された学校のことです。

地域住民が学校運営に参画できる仕組みであり、学校とともに地域も責任を担うこととなります。

各学校でコミュニティ・スクールとして、地域とともにある学校づくりを進めることで、地域への愛着や誇りを持ち前向きに取り組む子どもたちを育てます。

また、地域行事や公民館講座において、地域における子どもたちの活躍の場を設置

するなど、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を図って参ります。

さて学校運営協議会には、主な三つの機能があります。一つは、校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること。二つ、学校運営について教育委員会または校長に意見を述べるができること。三つ、教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べるができる。例えばICT教育を推進したいとか、生徒指導を重点的にしていったりとか、英語教育に力を入れていきたいとか、そういうものでありまして、個別の職員に係るものは除きます。

今後、コミュニティ・スクールを進めるにあたって、大切にしたいステップが二つあると考えております。

一つ目は、学校運営協議会の中で、地域と学校の間で育てたい子どもの姿を共有することです。例えば、「夢や目標を持つ子どもをもっと増やしたい。」とか、「自分には良いところがあると思える子どもを増やしたい。つまり、自己肯定感が高くなる子どもを増やしたい。」「ふるさとの良さを感じる子どもを増やしたい。」などの、地域と学校で育てていきたい子どもの姿を、まずは共有することがステップ1です。

二つ目は、ステップ1で共有した育てたい子どもの姿を達成するために、学校、家庭、地域でできる、それぞれの強みを生かした具体的な取組を行うということがステップ2です。例えば、自分には良いところがあると思える子どもを増やしたい。つまり自己肯定感が高くなる子どもを増やしたいという、育てたい子どもの姿を共有した場合には、具体的な取組として、学校では、総合的な学習の時間や、学級活動で自分のいいところについて考える場を設ける。家庭では、保護者がプリントのワークシートに、我が子のいいところ、頑張っているところを記入する取組を行う。地域では、中学生が講師となって公民館講座を実施する。小学生が地域行事で活躍する場を設けるなどの活動が考えられます。

本市では、令和3年度に津山東中学校が初のコミュニティ・スクールを開始し、今年度には、小学校として初めて鶴山小学校、中学校の2番目として勝北中学校が開始しております。令和6年度中には残りの小学校が導入し、全ての小中学校がコミュニティ・スクールであるという状態になります。

既に導入している3校の主な取組事例について紹介したいと思います。

津山東中学校では、中学校区挨拶一斉運動、生徒会と学校運営協議会委員間で取組等の情報交換、津山東中学校生徒が講師となった公民館講座の実施、放課後学習の充実等に取り組んでいます。

鶴山小学校、勝北中学校につきましては、今年度からのため取組はこれからですが、鶴山小学校では花いっぱい運動で活用している花壇に花の苗を植える活動等を行っております。また、コミュニティ・スクール導入に合わせ、地域学校協働活動の充実を

目指して取り組んでいくということです。

勝北中学校の活動として、3つの取組をお示ししております。一つ目が、生徒が講師になって、公民館講座を実施する取組です。これは東中学校の取組を取り入れたものです。二つ目は勝北中学生が小学生を中学校へ招き、勉強を教える小中合同勉強会です。

また、勝北中学校出身の美作大学生が中学生に勉強を教える「夏のてらこや」を実施することとしています。三つ目は社会科で勝北地域の防災について学習する機会も設けておまして、いずれもコミュニティ・スクールに合わせて、新たに取り組むものです。

令和5年度にコミュニティ・スクールを開始する小中学校は合わせて15校です。来年度に向けた準備こそが大切だと考えておまして、今年度は、学校への説明のほか小学校と中学校に分けて研修会を実施しております。既に実施している、学校での取組も参考にしながら準備しているところです。

準備の内容としては、設立準備委員会を立ち上げ、委員を委嘱するとともに、次の内容について学校で検討することにしております。一つは、コミュニティ・スクールでの取組についての校内でのニーズを把握することです。そして学校の課題や、育てたい子どもの姿を考えるためのデータの準備や、関係者の十分な理解と信頼づくり等を行っていきたいと思っております。これら十分な検討を通して、スムーズなコミュニティ・スクールにつなげていきたいと考えております。

◆事務局

それでは引き続きまして、今現在、本市で取り組んでおりますICTを活用した実例をご紹介します。

「未来の学校、みんなで作ろうプロジェクト。」は、今年度から始めております東京学芸大学との現在進行形の取組です。目指しているのは、基礎学力を、社会全体、地域全体で支える仕組みが作れないだろうかということです。この取組については将来的にはいろいろな地域に波及させるようなことができると考えております。

イメージとしましては、中心に子どもの絵がありますが、児童生徒の周りに学校や家庭、地域、民間企業等、全体で学力について様々な形で支えることをしたいと考えております。

例えば、ICTを活用した学力等の可視化に関して、それぞれの児童や生徒が、今、どこが判らないのか、どこにつまずいているのかなどを、ICTを活用して可視化することにより、学校の先生はもちろんのこと、家庭や、協力いただく民間企業や高等教育機関等が個別の児童生徒の状況を把握することで、何を教えたらいいのか、どこがわからないかということろを把握したうえで、教えていただくことができるようになります。

現在は、津山東中をモデル校にし、取組を進めております。

津山東中学校をモデル校にした理由の一つは、コミュニティ・スクールを進めているということで、より多くの地域の方にこの実証実験についても参画いただけるのではないかと考えています。もう1点は、津山東中の特徴として、小学校7校から進学して来るので、個々の生徒の状況についても可視化できるようなデータが定着してくれば、中学校で迎えた先生も、小学校の状況が個々の生徒について、こうした可視化データを使うことで、進学してからすぐに、様々な取組ができるのではないかと考えているところです。

課題としましては、資料には民間企業等と書いておりますが、どのような形で、どのような方に参画いただけるのか、本会議の場でも、いろいろな立場で参画いただく方法などご意見いただきますと、現在進めているプロジェクトにおいて、フィードバックして、実際に津山東中のいろんな組織の方に働きかけをしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

◆市長

教育委員会からは、コミュニティ・スクールを中心に、今の取組をご紹介をいただきました。それではまず有本教育長に口火を切っていただくこととします。

◆有本教育長

これからの津山市の教育で一番大事なものは、地域や社会とつながる教育を進めていくことだと思っています。

その背景にあるのは、スマホの問題や家庭学習時間の問題、体験不足、子ども会活動などの地域活動が減少し、個人主義に流れていることなどです。そういう意味でも、社会や地域とつながる学校教育というのは、これからのキーワードとして必要と考えております。

また、この総合教育会議でこういうテーマになったことが、私は非常に有意義なものだと思っています。市長が主催する総合教育会議ですから、市長部局の各部署と教育委員会が、総合教育会議でしっかりと議論ができるというのは、非常に意義があると考えております。

先ほど、事務局からお話がありましたけども、地域とつながるといのがコミュニティ・スクール、情報社会とつながるといのがICT化ということで、東京学芸大学と複数の共同研究を進めておりますので、これらが一つずつ、つながっていけば、さらなる教育の充実につながるのかなと思っています。

本日は、各委員さんの思いも含めて、しっかりとご意見をいただけたらと思います。

◆市長

教育長からは、「地域で子どもを育てる。」ということがキーワードとして、今後の

津山の教育に必要なじゃないかというお話でした。また、市長部局も含めて、地域と学校教育のつながりをテーマにしたということはいいことだとのことでした。

まずは、コミュニティ・スクールを令和6年度までに津山市でも導入していくことが連携の中で進めていることでもあります。そういった観点も踏まえまして、地域と企業、家庭、学校とのつながりという面から、皆様のご意見を伺いたいと思います。

◆教育委員

子どもたちを取り巻く環境、また、学校が抱える課題は、複雑化、多様化しています。例えば、子どもの貧困、児童虐待、ヤングケアラー、インターネットの利活用、ニーズに応じた個別の指導、LGBT、いじめ不登校など、本当に複雑化、多様化している現状だと思います。

将来は、先の見えない不透明な時代と言われています。このような中、学校は地域の中に存在しておりますので、学校だけではなく地域とともに子どもを育てていかなければいけないのではないかと、まさにそれがコミュニティ・スクールだと感じています。そこで大切なことは、地域でどのような子どもを育てるか子ども像の共有、何を実現するかという共有、それを学校と地域が責任を持って共有して、それぞれ協力して取り組んでいかなければならないということだと思います。

今まで、学校支援地域本部とあって、学校支援ボランティアの方もいらっしゃいました。それは地域の教育力を学校の中に取り入れようということと、子ども像を共有して何を実現するかまでは、十分ではなかったと思います。学校の要望に応じて地域の方が来てくださっていたというところです。

どちらも責任を持って子ども像をしっかり立てて共有して、実現していくことがとても重要だと思っています。いわゆる地域が今後キーワードになってくると思っています。

◆教育委員

中学校では、様々な行事や、社会や地域との連携やつながりの中で生徒たちは活動してると思っています。

その中で特に中学2年生の職場体験学習というものが挙げられると思います。

わくわくワーク、チャレンジワークなど、各校によって名称が様々で、2日から3日間、それぞれの学区内において、事業所、福祉施設、個人商店、コンビニ、そしてケーキ屋さんなど様々であります。生徒たちは、最初は緊張して、挨拶の声が出なかったり、動作がぎこちなかったりして、戸惑っていたそうですが、お店の人や事業所の人に丁寧に指導を受け、働くことの大切さや、感謝の気持ちを持つことができたそうです。

学校と地域の連携で、生徒は活かされていると思っています。さらに私の地元のこ

とで大変申し訳ありませんが、紹介をさせていただきます。

長い伝統になっております津山加茂郷フルマラソン全国大会があります。この全国大会において、中学生たちが全校上げて、大会にボランティアで参加し、給水のお手伝いなどの取組の中で、選手たちからは非常に好評でありました。この取組は、第1回の津山元気大賞に選出されました。このように、学校と地域の連携が、未来を担う生徒たちのすばらしい教育活動の一環になっていると考えております。

◆市長

お二人の委員からお話をいただいたところでありますが、いただいたことに対して皆さんのご意見を伺ってみたいと思います。

子ども像の共有、津山市においてどういう子どもを育て育んでいくのか、それを、学校と地域が共有をするということが重要だというご意見でした。委員が挙げられた多くの課題について、学校や先生にお願いするだけということで解決するのは難しいというお話だったと思います。

子ども像の共有について教育長から何かありますか。

◆教育長

今、コミュニティ・スクールに向けて準備をしている学校は、地域とこの子ども像の共有をテーマにして議論しています。どんな子どもを育てたいか、地域の方のご意見や、学校の教員の意見のすり合わせをしっかりとやりましょうというのが、準備委員会の一番大きなテーマです。この地域ではこんな子どもを育てようというのを共有することがコミュニティ・スクールでは重要だということで、今その準備をしているところです。

ここで、地域と学校がずれることがないようにしていくことが大事ななと思います。

また、私がなぜ津山東中学校を一番最初にコミュニティ・スクールにしたのかという理由は、地域の担い手を育てるのは地域の責任でもあるので、学校も地域も子どもの教育に責任を持って欲しいという強い思いがありました。特に当時、津山東中学校は生徒数も一番多いですし、問題行動等もあって教員も疲弊している状況もあったので、ぜひ、第1号として津山東中学校をということが背景にあります。

津山東中学校もスタートは、どんな子どもたちに育てたいかということで、準備委員会では、特にそういう協議をしていただけたのではないかと考えております。

◆市長

教育長から、まさにこれなんだというお話をいただいたわけではありますが、コミュニティ・スクールの主な取組に、各学校の特色が表れています。津山東中は挨拶をしようとか、鶴山小学校は、地域の皆さんと色々な取組をしよう、勝北中学校

は勉強や寺子屋といったことが前に出てきています。

委員の皆さん、子ども像を共有する、地域と作っていくということについてご意見はありますか。

◆教育委員

地域の子どもの姿は、市長も言われていますが、地域に誇りと愛着を持つということですね。常々このことは、子どもたちには一番にそういった気持ちを持ってもらいたいと考えています。自分の国が好き、岡山県が好き、住んでる地域が好きと、そういったことが、自分自身も好き、自己肯定感というんですね、そういったことにつながっていくと思っています。鶴山小学校でも、今回コミュニティ・スクールということで、私は鶴山小学校のコミュニティ・スクールに携わらせていただいていますので、まずは地域愛の醸成を進めているところであります。

◆教育委員

学校運営協議会など、地域の人がたくさん入ってくることで、中学が抱えてる課題も、それから地域が抱えてる課題も、両者が見えてくるのではないかと思います。先ほど委員が課題を沢山言われましたけれども、大人でも引きこもりとか、高齢者の見守り支援とかも出てくるので、地域づくりの一つとしての学校運営協議会だし、それから、学校運営協議会として地域づくりができるのではないかと思います。

最初のステップ1を出す上で、準備委員会でニーズや課題が出てくるとと思います。その上で、ニーズとか課題というとなんか寂しい感じですけども、育てたい子どもの姿を共有するというところで前向きな目標を立てていくのだと思います。

質問になりますが、3校のステップ1の、育てたい子どもの姿、目標などが出ていたら教えてください。

◆事務局

昨年度は津山東中学校ではとにかく自己肯定感を高めたいということで、放課後学習の充実とか、挨拶によって人と人とのつながりを持つとか、公民館や地域活動での活躍の場を持つとか、とにかく、自分には良いところがあると思う生徒を増やすということです。

鶴山小学校については、創造性豊かに考える子、助け合う子、やり抜く子ということが、第1回の学校運営協議会で共有されています。

勝北中学校については、夢や目標を持って、その実現に全力で取り組む生徒、郷土を愛し、地域に誇りを持つ生徒、ということが共有されています。

◆教育委員

こういったことを達成するためのいろんな事例があると思うので、研修会でも言われたと思うんですけども、根幹がしっかりしてたら、アイデアが地域の中から出てくるのではないかと期待しています。運営協議会には、何十人も居られるわけではないですが、地域の中の代表として来ていただいているので、そのエリアの課題などもその方たちで共有していただいて、いい形で進んでいければいいと思って聞いていました。

◆市長

委員から、具体的なお話をいただきました。中学校2年生の職場体験や加茂中の取組です。加茂郷フルマラソンに対して、全校生徒でボランティア対応しているということで、この中で得るものがあるのではないかとということでした。

こういう実体験だとかボランティアだとか、そういう取組についてご意見があればお聞かせください。

◆教育委員

具体的な取組なんですけど、子ども像を共有して、そのあとアクションプランをどうするかという話だと思います。私は二つあると思います。それは双方向の活動が必要なんじゃないか、つまり、子どもから地域へいく、逆に地域から学校に入っていくという双方向の取組がとても重要になってくるのではないかと思います。

地域から学校へは、例えば、今まで学習支援ボランティアで安全支援、学習支援、環境支援の三つの視点で、地域から入って行っていました。通学も含めて、見守り隊、駆け込み110番と、職員も保護者も安心して子どもたちを見守れるようになりました。学習につきましては、例えば家庭科の裁縫であるとか、新体力テストの補助であるとか、算数の九九の定着であるとか、様々な学習活動にアシスタントとして、サポーターとして入っています。

さらにゲストティーチャーとして、例えば、食育で農家の方に入ってくださいとか、総合的な学習で福祉体験教室で、視覚障害者の方に来ていただくとか、専門家の方に来ていただくとかそういう取組も行っています。

それは地域から学校に来ていただくという取組だと思います。子どもたちの学習を支援していただいたり、自己肯定感が生まれるように、先生とは違った地域の目で子どもたちを褒めて育てていく視点があるのではないかと考えています。もう一つ、学校から地域へという取組で、正に津山東中学校の公民館活動ではないかと思います。

自己肯定感を醸成する、高めるために取り組んでいる、自己有用感や自己存在感を子どもたちは随分感じていると思います。公民館で子どもたちが参加するのではなくて、講師として、参加される方々の先生役になるという、本当にすばらしい取組で、これを勝北中でも実施されているということですね。

さらには、鶴山小の取組が、花を置いたりする取組は、学校から地域の人を呼び込むのか、子どもたちを地域に返して土日にやってもらうのか、その辺も非常に重要な視点になってくると思います。それぞれが責任を持って行っていくことについて、そんなふうに感じています。

双方向の取組を、今後取り入れていけば、地域のつながりも深められるし、子どもの育ちにも好影響を与えるのではないかと感じています。

以上です。

◆市長

双方向でという、新たなキーワードが出ました。一方通行ではなく双方向でやったのかとこういうお話でした。

それでは、コミュニティ・スクールを含めた全体のご意見を、他のお二人にお伺いします。

◆教育委員

コミュニティ・スクールの件につきましては、今年度より、鶴山小学校で開始されておりますが、まだ2回開催されたばかりということで、まだ手探りの状態ではあります。

このコロナ禍で2年ぐらい、地域とのつながりや、PTA活動もほとんど行われていないというような状況が現実でありました。今回、コミュニティ・スクールで第1回、第2回が開催された中で、まず、もう一度学校を知ろうというところから始まっています。といいますのも、この2年間で学校の先生も大幅に変わっています。

私もそれまでは、学校の先生を全員知っていましたが、今は半分もわからないという状況になっています。地域の方々も同じ状況です。コロナ禍でつながりが薄れてきた中でもう一度学校を知ってもらうということにおいては、この時期にコミュニティ・スクールの導入が進んできたというのは、意義あることだと思います。

そんな中で、一つキーワードとなるのは教育長も言われていました「責任」というところだと思います。

今までの、例えば評議委員会は非常に受け身的なイメージがありまして、校長先生の話を受け身で聞くといったような雰囲気でしたが、自分たちで考えていけないんじゃないかといった空気感がでるのが、コミュニティ・スクールのいい面だと思います。

細かな学校の課題を運営協議会の場でしっかりと共有していき、各メンバーがみんな考えて意見を出していくというような姿が望まれるコミュニティ・スクールの姿だと感じています。

◆教育委員

今年から郷土学などもカリキュラムに入ってきて、例えば鶴山小学校であれば町探検という取組があるのですが、運営協議会の人数は限られてるのですが、その方々が地域に声をかけていただいて、町探検のグループの中に地域の大人が1人入って子どもたちと一緒に探検してみるとか、なるべく地域の人と一人ひとりの子どもが接触できる取組がいいかと思います。津山東中学校になると、生徒数が多いので、一人一人がコミュニティ・スクールで子どもたちが地域の中で全員が活躍するということは分かりにくい場合もあると思います。小さい規模の学校から一人一人が、地域が、「自分たちのことがわかってきている。」ということを経験しながらやっていくのが良いと思います。企業などが実施すると、企業側もうれしいし、子どもたちも、身近な人で、今度会ったときに挨拶を自分からするととなると、町の中で生きているという生活してるということが、両者が実感できるので、いいのではないかと思います。

こういったことを、学校の先生方も、もっともっと取り入れながら、いいアイデアを出していただいて、地域の人を巻き込みながら、一つずつ進めばいいかなと思います。

地域の人がやってよかった、これがあることで地域がより良くなったということが実感できるような、もっと学校に関わりたいたかもっと子どもたちを良くしたいと思えるようなものも、期待される効果に入れていただきたいと思います。

せっかく地域でするので、学校がより良くなるのもそうですが、地域がより良くなって、やってよかったと思えることがコミュニティ・スクールの意義だと思って聞いていました。

◆市長

委員からは、評議委員会との違いをすごく感じている。また、まずは課題を、みんなで、受け身ではなく能動的に知ろうということからスタートすべきじゃないかというお話がありました。

もう一人の委員からは、地域学校協働活動が必要であるというお話がありました。要するに、接触をして、接触をするだけでなく何かを経験して作り上げていく。そのことがまた次へ重なっていく。ということになります。

委員から、鶴山小学校で、具体的に今後考えている、地域と学校の協働活動について、もしご紹介をしていただけるようなものがありましたら教えていただけますか。

◆教育委員

実際、鶴山小学校では、地域との深いつながりのある活動は、これまでも、多く行っていたという土台があって、そこがコミュニティ・スクールに取組やすかったというところもあると思います。

そしたら、なぜコミュニティ・スクールにするのかということになるのですが、取組を実施しながら一緒に、学校も地域も、もう一度いろいろなことを考えていくことが、一番の重要な目的になってくると思います。

こういった地域学校協働活動とか、資料にあるような取組をやりながら、こういったところに課題があって、こういった子どもたちが居るのかといったことも含めて、いろんな問題を共有しながら、それについて考えていく。それが地域や学校の責任ということにつながっていくと思います。まだ本当にこれからの段階です。

ただ今回、学校見学に行きますと、この2年間で学校もかなり変わりました。一番はICTだと思います。そういったことは地域の方は全く見てなかったですが、一人一台端末になって、黒板も映像を映して、その画面が子どもたちの端末にも出ているといったように、いろんな形で変わっています。だからこそ、地域とのつながり、面と向かってする活動も重要ですよねといったようなことにもつながってきています。そういったICTでのいろんな活動とともに、さらに地域との交流を深めて、人と人と見て対面とのつながりというのも、今だからこそ必要なんだろうといった話も出ているところであります。

◆教育長

特に双方向の取組が重要であるという部分では、地域と学校とをつなぐのは、一番は公民館だと思います。公民館活動というのはどちらかと言えば大人とか高齢者の対象とする講座がメインだったのが、一例を挙げれば、院庄公民館はいち早く子どもが対象の活動を取り入れられて、それが少しずつ市内の他の公民館でも広がってきています。そういう取組をすることによって、例えば中学生になっても、夏休みなどに、そこに子どもが帰ってきてくれるという好事例があるので、双方向の取組をこれからしっかりつなぐカギになるのは公民館だと思います。

本市でも地域おこし協力隊とかいう方が入られているのですが、例えば教育分野での、地域おこし協力隊的なもので、いわゆる地域と学校をつなぐ役のような方も、今後、入っていただければ何か新しいものが作れるのではないかなと思います。公民館と一緒に新たな取組ができるのではないかと、今お話を聞きながら感じたところです。

◆市長

委員からのお話の中では、地域学校協働活動は、別に特別なことをしたのではなく、今まで取組があったことで、素地のあるものを発展させているということで、これは、取り組みやすいと思います。鶴山小学校の、PTAのOB、OGさんがしている取組もいいと思います。

ICTのお話ができました。地域の皆さんが、ICTの導入で学校が大きく変わった

など感じておられるということでした。教育委員会で、今は児童生徒に向けて、ICTの活用を行っているのですが、ICTの活用を地域とつなげるような動きはありますか。

◆事務局

地域とのICT活用につきましては、昨年度、津山洋学資料館と西小学校の4年生を結んだオンライン授業を行いました。本市では小学校6年生全員が、津山のすばらしさを知るということで津山洋学資料館を訪れていますが、6年生以外でも、必要に応じて、郷土の良さを知るための取組を行うのですが、地域に出かけるためにバスを用意していくのも難しいところもあります。今年度も、複数の小学校が津山洋学資料館とオンラインを活用して授業をすることになっております。それから、横野の和紙につきましても、高田小学校の5年生、6年生では近いので実践があるのですが、横野和紙の宮川水系の他の学校等につきましても、冬はバスが使いにくいこともあってオンラインを活用する予定にしております。コロナ禍で、オンラインの活用が普及する可能性が見えたということで、つやま郷土学に活用するということを考えているところです。

◆市長

他にICTの活用で委員の皆さんから、何かお気づきの点はございますか。

◆教育委員

最初に事務局から説明がありました、未来の学校みんなで創ろう。ですけれども、この基礎学力を社会全体で支える仕組を実施するにあたって、学力等を可視化して、具体的には、公民館で勉強会みたいなのをするという事は、民間企業という塾ということでしょうか。もう少し具体的に教えていただけたらと思います。

◆事務局

もちろん、学習という面で学習塾が参画ということもあろうかと思っておりますし民間企業等ということで、本市に居られる高校生、大学生、高専の生徒さんなども、この絵にあるような感じで教えていただくようなことも考えてます。

本市でも、高校生の方が教えてくださる取組もあるのですが、距離的なことがあってなかなか高校生の足で行けないので、実施されてるエリアが限られています。まだ構想の段階ですが、ICTを活用して津山市内の小学校のどこかの教室と、出身の先輩に教えてもらうといった取組、大学生であれば、出身の大学生が、本市に居なくてもつながるといった取組もできると思います。

また、特に思っているのは、塾とかではなく、民間企業の方に公民館以外にも、学

校近くの企業の方に寺子屋的に教えていただくとかが可能なのかといったあたりも、委員にお尋ねしたいところです。

◆教育委員

昔は、地域の工場見学にはよく行っていたと思います。地元にある工場で説明してもらったりとかですね。うちも昔は工場が東津山駅の裏にありましたので、林田小学校から、そこに歩いて行って遠足がてらに見学に行っていたというようなこともしていました。個別の企業であれば、企業でできるオープンファクトリー的な取組は、独自にでも用意できる会社は用意できるのではないかと思います。

その他の団体で言えば、今、法人会とか間税会が税金についての授業をやっています。去年は青年会議所がコロナ禍だからこそできることということで考えて、みんなを集めるのではなくて小学校を回って、「津山城のことを知ってもらうことをきっかけに地域の良い所を探そう。」ということで、出前授業をしました。そういった様々な団体とうまくつながってやっていくのが良いと思います。そういう面では商工会議所もいろんな会もありますし、わっしょい津山も、今回10周年ということで、先日のごんごまつりでもしましたけれども、この十年間で、毎年、運動会では踊りの練習会を頼まれた時には出向いて行ってやってるといったことも、企業のみならず団体とのつながりということですね。こういった時には、大体その地域に近い人が行くということが結構あるので、そうすればその学校と、団体に加盟してる地域に近い人との接点もできてくるのかなとも思います。

◆教育長

地域のつながりという面では、先ほど公民館の取組があります。それから企業も含めて社会とのつながりは、私は職場体験とか本物に触れるというのが大切だと思います。例えば、パナソニックは大きな建物ですが、子どもたちは外の建物は見るけど中でどんな仕事やってるか見たことがありません。去年は、企業見学会で入らせてもらったのですが、コンピューターが動いている様子などを見ると、本物に触れるという経験は非常に貴重だと思います。そういう経験をしっかりと、積み上げることが夢や目標を持てる一つになるのではないかと思います。

夢を持って、目標を持って、何もしないで言うだけでは持てないので、こういう体験をしっかりとできる津山の教育の環境づくりが大事なのではないかなと思っています。コロナでなかなか動けなかったのですが、少しずつ取組を行って行きたいと思っています。今回のオープンファクトリーでは小学校の部がもう募集開始5分でいっぱいになったようです。

子どもたちにはそういう環境をしっかりと作っていきたい。そのためには、市内の企業の皆さんにもいろいろお願いをしたりしながらできたらいいと思っています。

そういうつながりを、先ほども地域おこし協力隊の話をしてしましたが、コーディネートする人は例えば公民館であれば公民館長さんになると思いますが、そういう理解をしていただける方、コーディネートしてくれる方というのが大事なのではないかと思っています。

◆市長

ICTを活用して外と交流するという点では、津山郷土学ということで、しっかりつなげていきたいということがありました。

双方向ということになると、これから公民館をしっかり作って欲しいということで、また地域振興部に、総合教育会議で公民館の話がでて、子どもを巻き込んで、これをしっかり動かして欲しいという話があったと事務局から伝えて欲しいと思います。

それからもう1点この地域振興部になりますけど、地域おこし協力隊の教育分野のコーディネーターというような方を考えたらどうかというご意見もありました。こちら事務局から地域振興部に伝えてください。

地域とのつながりは公民館、社会とのつながりは職場体験などのお話がありましたが、今の子ども達は実体験が足りないのでしょうか。私は少しそういう気がしてまして、鶴山小学校の地域学校協働活動の中で、田植えとか稲刈りとかお飾りづくりとかそういうことをされているのですが、特に農業体験をしっかり持って、育てて、最後は収穫する喜びという、そういう体験をもっともっとさせてあげたいと思います。

◆教育委員

今のお話の中で、小学校2年生と5年生が、この農業体験を、田植えや稲刈りをします。ある程度、体験ができてるのではないかと思います。それが今度は中学校にどのようにしてつなげるかというところはあると思いますが、小学校ではそのような体験もしています。

◆市長

今日こうしていろいろなお話をいただいたことをもって、今年度はあと2回を予定しているのですが、その中でですね、例えばテーマとか、進め方について、方向性も定めていきたいなと考えています。

私もう一点、皆様にご意見を聞きたいことがありまして、部活動の地域移行についてです。ちょうど国から部活動の地域移行について出されてるんですけど、もし、部活動と地域とのあり方みたいなことについて、何かご意見がありましたらお願いいたします。

◆教育委員

最近、活動の地域移行というなお話がたくさん出ていますけれども、指導者の問題で、昔は結構、OBの方も含めまして、地元にはスポーツに精通された方がたくさんおられたんですけども、年々高齢化してきて、柔道や剣道などは、割と地元の方が年齢が高くても指導ができるとおっしゃってる方も居られるのですが、例えば、音楽に精通した人が居られるかどうかについては、なかなか探さなければいけない。

いろんな部活動で、先生方がその指導の範疇でできる範囲はいいんですけども、もっとレベルアップをするというのはやっぱり専門的な知識を有する方っていうのはなかなか難しいかなと思ってます。

私のところでも体操班というのがございまして、その中で、子どもたちが活動しているんですけど、やはり指導者の方がだんだん高齢化になっておりまして、若い世代がもっと居てくれたらいいなと思うんですけども、仕事の関係もあって、なかなかうまくはいってないんですが、その中でもやりくりしながら指導をしてるところです。

あとは、中学校の先生が何らかの形で、一応、顧問の形態をとっていただいて、大会に行くまでの生徒の安全をどう図るかということがありますので、その辺が引率者という形を、何とかキープできるようになればと思います。指導面の方は外部委託ができるかもしれませんが、なかなか全部を外部の方にとというのはなかなか難しいのかなというふうに思います。これからの課題だと思います。

◆市長

他に部活動では何かございませんかね。

◆教育長

以前、教育委員会会議の中でも、保護者の中には、来年からもう部活動が地域に移行するのかなというような、話をされる方もいらっしゃるということもあったりしました。国が有識者の提言が出たということで、これを踏まえてこれからスポーツ庁の方針を出すわけで、また有識者会議の提言が決定ということではありません。私が今考えているのは、まずは実態把握をして、学校の先生方が部活動の地域移行をどう思っているのか、地域移行になっても協力しますと言っている教員がどれぐらいいるのか、私はもう絶対しないという教員がどれぐらいいるのか。そういう実態をしっかり把握することや、保護者のニーズもしっかり把握したいと思います。特に、この地域移行のそもそものきっかけは少子化です。それがどちらかというと教員の働き方改革の方で皆さんに取られているようですが、少子化で一つの学校でチームが組めないような状況になりつつあること、今後どうしていくかということが大きな背景にあるので、そこを間違えないように、進めていかなければならないと思っています。

◆市長

それではそれぞれの立場からですね、それぞれ具体的なお意見、ご提案をいただいたところでございます。次回テーマにつきましては、これの発展系ということになるわけでありませうけれども、例えばですね、今度はコミュニティ・スクールに限って掘り下げていくとか、或いはキャリア教育だったり、部活動、そのほか、今年度は、後期の実施計画の中で不登校や、引きこもりとか、いじめとか、こういうことに力を入れていこうと教育長とお話をしているところです。

子ども像や双方向、公民館やICTなど、今日のお話の中で出たキーワードなども含めて、テーマはまた絞らせていただきたいと思いますけど、いかがでしょうか。

～各委員から賛成の表明～

◆市長

もう1点、進め方につきまして、例えば、テーマに沿った専門家をお招きして事例もお聞きするし、議論を深めていくということで進めたいと思いますがよろしいでしょうか。

～各委員から賛成の表明～

◆市長

それでは最後に教育長からご挨拶をお願いします。

◆教育長

次回以降のテーマにつきましては、先ほど出ました、いじめ、不登校、長期欠席などこのあたりは、学校も本当に苦慮しているところで、地域や社会とつながって解決したいと考えています。学校だけではなかなか不登校を解消できるというところが無いので、そういう点では、地域或いは社会とのつながりの中で解決できる課題ではないかなと思っていますので、ぜひこのテーマで深堀したいと思います。

その中で専門家の方も、例えば、みらい戦略ディレクターの専門分野で助言をいただき、そういうものを踏まえた議論ができればいいと思います。

今日の感想というか、私の思いですが、とにかく社会や地域とつながる学校教育を今後実施する必要があると、冒頭申し上げましたけども、社会や地域が学校に対してできることは何かと言ったときに、地域はまだ学校に対して遠慮しています。それでも学校は学校の先生がいるからというふうな意識がまだまだあります。そうではなく、地域がどんどん学校に来ていただきたいという思いを私は持っているのです。そういう意味でも、外部人材を活用した事業など、今日は、向陽小学校ではJAXAが入って授業をしています。租税教育もそうですが、いろいろな人が入ってやっています。も

う学校の教員だけが教えるというのではなく、本物に触れる教育をしっかりとる上で、地域や社会からどんどん入って欲しいということが一つ。

逆に、学校が社会や地域に何を求めているかと言えば、以前は閉鎖的だったのですが、今はなかなか学校も、自分達だけでは解決できないという自覚が出てきて、とにかく皆さんの協力を得てやっていかないといけないとなり、その流れがコミュニティ・スクールです。まだまだ先生方は、私たちがしないといけないんだと責任感が強いので、とにかく地域と一緒にやっていかねばならないという意識改革は当然、我々、教育委員会としての仕事としてやって行かなければなりません。そういうあたりの地域社会と学校との円滑なつながりにも、しっかりと目を向けていかないといけないと思っております。そういう意味で、教育的なコーディネーターが何か新たな制度ができたらいかなということも、提案させていただいたところであります。

いずれにしても、津山の教育を少しでも前進させていくということを踏まえて、引き続き、2回、3回の議論へ進めていけたらと考えています。今日はありがとうございます。

◆市長

教育長からは総括をいただいたところでありますけれども、次回テーマは、今のお話でいきますと、不登校、いじめ、ひきこもり、そういう方向で進めて参りたいと思います。

そこにまた、専門家の先生をお願いして、しっかり議論を進めるていきたいと思えます。よろしゅうございますか。

～各委員から賛成の表明～

◆市長

ありがとうございます。

本日の議題は以上ということでございまして、事務局にお返しをしたいと思います。

◆企画財政部長

それでは4、その他でございまして、皆様から何かございましてでしょうか。

◆教育長

昨年11月に協定を締結した三津同盟につきまして、教育の分野でも交流ができないかということで、調整していた件ですが、中津市、津和野町から了承をいただきました。正式には、改めてご報告したいと思います。

こういう時期なので、全ての学校がそろって、協定書にサインするとか、そんなことはなかなか難しいですけど、教育分野でそういうつながりができたということをお知らせしておきます。

◆企画財政部長

それでは、以上をもちましてその後は終わりにさせていただきます。

それでは、次回につきましては、第2回を10月から11月ごろ、また、第3回目につきましては、1月から2月ごろに開催したいと考えております。

具体的な日程につきましては、改めて調整させていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

以上をもちまして令和4年度第1回津山市総合教育会議を閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。